

あたたかい地域社会の構築を目指して

・・・・・・環境学習に携わりながら・・・・・・

カワゲラの会代表

掛川優子

私の住む藤岡に「かな川水辺の楽校」ができることになりました。国土交通省と藤岡市、そして私たち地域のボランティア団体等が協力して、自然環境あふれる安全な水辺の創出を進め、身近な自然空間である河川を自然体験・自然学習の場として子供も大人も活用できるよう整備しようというプロジェクトです。私は、これを子供たちを見守り育むあたたかい地域社会を構築しようという試みだと捉えています。

流水の世界をのぞき込み、水生昆虫での水質調査を中心に、自分自身も学びながら小学校の環境学習に携わって、そろそろ10年になります。現在は群馬高専の卒業研究も指導しています。そしてそんな子供たちを暖かい大人たちの心で包んであげられるようなフィールドがほしいと、だんだん思うようになりました。そんな思いが、とうとうひとつの形になってきたと思うのです。

1、振り返ってみると

私は現在主婦業の傍ら、水生昆虫の生息質調査を中心に活動する「カワゲラの会」を10年前に創りました。このカワゲラの会での活動で得たことを元に、環境学習を教える小学校の非常勤講師になり、藤岡市環境審議会副委員長を初め、県環境審議会水質部会委員、同自然環境審議会委員などいくつかの審議会の委員も努めるようになりました。また藤岡市環境審議会に諮問のあったことから、市天然記念物ヤリタナゴなどの保護保全運動に参加し、そこから子供たちが遊べる豊かな水辺を残したいとの思いが生まれ、市民団体「藤岡の魚と遊ぼう・やりたなごの会」も、スタートしました。「ヤリタナゴ観察会」や「鮎川の生き物調べ」などを開き、次の企画も準備中です。このような活動に対して、驚くべきことでしたが、平成14年6月に環境省水環境部長表彰を授賞しました。

北海道で生まれ、高校卒業後は速記専門学校にすすんだ私には、生物は全くの未知の世界でしたので、平成9年、生物や生態学を学ぼうと放送大学に入学しました。それでもすべてが手探り状態で、行き詰まっただけでしたが、その都度、知識や道具そして大勢の人との幸運な出会いに助けられ、のぞくと広がる流水の世界への尽きない興味とともに

に歩いてきたような気がします。

2、スタートは「カワゲラの会」

環境問題に目を向ける始まりは、もう大学生になっている長男がサムエル幼稚園に入園したときからです。ここは子供たちの未来のためにと環境保護に熱心な園で、身近な環境問題を教わりました。そこで社会に次々と新しい情報が溢れてくることに驚き、いったいこの中で何が本当なのかを知りたいと思うようになりました。そのためにできることは自分で調べるしかないのではないかと考えるようになり、県民生協の大気や水質の測定活動に参加し、化学指標による水質測定を学びました。次に水生昆虫を使い生物指標による水質調査法を学ぶことにしました。CODなどの化学的数値と違い、水生昆虫の指標であれば水質を目で見て実感できると感じたのです。平成8年、思いを同じくする仲間と出会いカワゲラの会を創りました。創っては見たものの皆私と同じ全くの素人で、当然水生昆虫の名前など見分けられません。でも指導者もなく教えてくれる人も、そのころはまだ見つけることができませんでした。にもかかわらずやるからには社会に役立つデータを残したいと、藤岡市水道水の65%を取水する神流川の水生昆虫生息調査を開始しました。自分で学ぶしかない、毎日神流川に通い、水生昆虫を観察し、放送大学にも入学して生物学や生態学の勉強も始めました。

3、長男の成長と共に携わった環境学習

それでも次第に水生昆虫についての知識と調査技術を得ていくことができ、それが小学校のお役に立つことになりました。小学校の特別非常勤講師として環境学習に携わることになったのです。

平成9年～13年

- ・ 藤岡市立平井小学校エコクラブ
- ・ 活動テーマ「あゆかわの水質階級マップをつくろう」

平成9年、息子が通っていた平井小学校のエコクラブに指導に行くことになりました。きっかけは家庭訪問に見えた担任の先生に「カワゲラの会」のお話をしたことでした。その後4年間、子供たちと鮎川に通いました。四季を通じて、水生昆虫による鮎川の水質をしらべ、毎年、水質マップを作りました。私も子供たちも担当の先生も季節により違う川の表情を驚きを持って眺めたものでした。子供たちの調査が終わっての帰りには子供たち

の喜ぶ顔がうれしくていつも手作りおやつを持参し、川原に座ってみんなでおやつにしたものです。

そのときの子供の一人が、中学には生物クラブがないと残念がっていたけれど、環境学を学べる大学に行ったとお母さんから聞きました。

私もずいぶん勉強になりました。この時のフィールドに始まった多自然工法による護岸工事の水生昆虫に与える影響の有無を調べることが、その後、入学した放送大学卒業研究のテーマにもなりました。

平成 14 年～現在

- ・藤岡市立美九里東小自然環境クラブ
- ・活動テーマ「ヤリタナゴを取り巻く環境を調べよう」

「楽しく探検 鮎川の上流・中流・下流」

その後、カワゲラの会とのつながりから美九里東小で自然環境クラブに携わることになりました。活動テーマはちょうどその年、絶滅を危惧され市の天然記念物に指定されたヤリタナゴを取り上げました。「ヤリタナゴを守ろう」ではなく、なぜ減ってしまったのかを多くの視点を与えて、子供たち自身に考えてもらう年間計画です。

保護手法の色々を見にミヤコタナゴの滑川エコミュージアム、屋上ビオトープのある群馬高専、護岸工事見学とほ場整備学習会。すべて現場で専門の方による説明です。ヤリタナゴを食べてしまうアオサギのコロニーも見ました。春と秋には必ずヤリタナゴの生息調査をしています。最初はやっと一匹しか見つからなくて、子供たちが大丈夫かと心配したヤリタナゴも、今年は40匹以上も見つかりました。この子供たちが行う調査は、ヤリタナゴ保護活動の貴重なデータとなっています。

でも基本は川の楽しみを知ること。

子ども達に「ヤリタナゴや環境を守ろう」とは言わないことにしています。それは大人の仕事だと思うからです。子どもは、遊んで楽しく過ごしてほしい。初めてすくった魚の輝き、よく見るとかわいい顔の川虫たち。たくさんの自然の中で遊んだ経験と思い出を持って大きくなってほしい。そんな子がいつか、自分の考えで川を見守る大人になってくれると思うのです。

4、地域での観察教室

毎年、地域でもいくつかの観察会を開いています。ヤリタナゴ保護団体、公民館、土地

改良区の皆さんと協力して、地域の豊かな自然に触れ合ってもらいたいと思っています。春には「ヤリタナゴ観察会」、夏には「鮎川の生き物調べ」、秋には「農業用水中村堰の生き物調べ」を開催し、地域の豊かな水辺の環境と野生の水生生物たちに親しむ機会としています。

この他に、行政に依頼され、県河川課による旧中里中学校での「神流川瀬と淵を取り戻す実験工事サイト」水生昆虫調査や親子川作り見学会、国土交通省高崎河川国道事務所「夏休み・かな川教室」で、水生昆虫による水質調査を指導しています。

5、ライフワークとしての調査・研究

放送大学卒業研究

「多自然工法による護岸工事が水生昆虫群集に与える影響について」

「県・神流川瀬と淵を取り戻す実験工事」効果の検証調査

珪藻と水生昆虫の群集推移(県瀬と淵を取り戻す検討委員会)

佐渡島野生復帰プロジェクト

トキの冬の餌場の生物調査(放送大学河合ゼミ)

群馬高専青井研究室で卒業研究の指導

神流川「瀬と淵を取り戻す実験」における珪藻類の生育調査

放送大学にはたくさんの目的を持って入りました。溢れる情報の中で何が本当なのか。それを知りたいという思いが入学した動機の一つです。卒業研究のテーマ「多自然工法による護岸工事が水生昆虫群集に与える影響について」は、前述した平井小学校エコクラブの活動フィールド・鮎川にある日始まった多自然型護岸工事の効果の検証調査です。子ども達と四季を通じて見てきた虫たち、また戻ってくるのだろうか、調査を始め約3年、2002年11月に書き上げ、群馬の川作りをしている県河川課にも提出しました。ぜひ読んでほしかったのです。

2003年5月、その県河川課が「瀬と淵を取り戻す検討委員会」を設置し、群馬の清流といわれる神流川上流で実験工事が始まりました。「生物が住みやすくなるように川に瀬と淵を取り戻そう」という目的に夢のある委員会です。もう10年以上調査に通い見続けてきた川です。私は委員に委嘱され、望んで水生昆虫調査の担当になりました。卒業研究の調査手法をそのまま生かします。調査で毎月見ている現場では予想外のことが起こります。工事が終了し通水が復旧した流れにまず優占した水生昆虫は、コカゲロウ達でした。

工事前はミドリカワゲラだったのになぜなのでしょう。珪藻食で岸際の緩やかな流れを好む彼ら。岸際の石に目立つ珪藻。餌を求めての食物連鎖かも知れないと、早速珪藻の先生に弟子入りし新たな勉強も始めました。

昨年6月からは、群馬高専の卒研指導を依頼され、研究室にも通うことにもなりました。この委員会で一緒に珪藻バイオマス調査をしている縁からです。これから技術者として社会へ出て行く学生が、生物に愛着を持ってくれればすばらしいと思い、私も勉強しながら指導しています。

今年の県民の日には、神流川で観察教室を開きました。実験工事現場で2年間調査をともにした群馬珪藻研究会や群馬高専の先生や学生と一緒に、町の人たちにミクロの川の生き物たちを見てもらう観察会をしたいと思っておりましたが、放送大学から顕微鏡を6台借り出し、実現できました。水産試験場、藤岡行政事務所、神流町役場、土木事務所、河川課の皆さんが協力してくださいました。万場小学校の児童がおじいさんやおばあさんと一緒に大勢参加してくれ、おばあさんが顕微鏡で珪藻を見て子供と一緒に感動する様子が見られるなど、準備に苦労をしたけれども、より以上の得るものがある楽しい観察会になりました。

6、終わりに

気がつくと、友人と創ったカワゲラの会をスタートに、小学校の環境学習に携わり、もう10年がたちました。今ではずいぶん活動の場が広がりましたが、その軸は子供たちの笑顔にはげまされて続けてこられた美九里東小学校の環境学習だったように思います。これを中心に、大勢の地域の方たちが快く協力しながら連携するシステムができてきました。水辺の楽校構想も、美九里東小学校の活動を応援してあげたいと生まれてきたものです。

子供たちは、暖かな大人たちの視線をいつも感じて大きくなって行ってほしいと思います。大きくなって、あの暖かくて楽しげな大人たちの世界に入って生きたいと思うような地域社会を、私たち大人は、創って待っていてあげたいと思うのです。

そのような思いをもって、これからも歩いていこうと思います。